



A vertical ruler scale with markings every 1 cm. The numbers are black, except for '08', '90', and '100' which are red. An orange arrow points to the 1 cm mark.

117
109
2



あそ臣の巻

君侯すよ少弱年おとこの筆事ひじ其その忠誠ちゆうせいととくにとくに榮さかんらひ成なりてなる名譽めいよの君きみとと作りつくり私わたくし私わたくし度どの度どすすとと今いま更さらうととは
政感せいかん心こころづももく滑なめらか意い通つう一國いつくにの治じ矣え民みんの憂う愁しゆハ
少すくな君きみの徳とく不ふ薄うす無むりりふ及およはは上うへ二人ふたりづぶくくりくう
手て事ことままりの多おおづまに渡わた古き今いま無む儀ぎ是ぜ又また及およはは大おほ人ひと君きみの
心こころの非ひとと拂ぬれすす方ほうととままかかの職しょくにては何なんをを云いふ
惟たゞ君きみとと止とどままい成なりりすす上うへの古き忠ちゆう誠せい莫ま大だいの大おお切きつててのをを
とと今いま世よケ孤この後ご志しとと至いたしし人ひとハはねね除ぬ安やすららざざ外ほか

安らかに、帝代の忠臣となりて庶民の扱人君の徳を乞う
眞實心から自己の言と好い惡と嫌好いより外の方へ
万般具生を愛するが己の言と好い惡とからむことより是
非邪正の道理と自己の心が腹を知らずしては其事
是非邪正へ境と自己の心が腹を知らずしては其事
あらばよのう窮屈より明旨の爲めに外へす
是が爲めに進むは成りずつて勇猛からぬ慢者
ゆきとあらば一山眞實小學問とゆふまゝ成りぬるも
事は至極の承認は深切に下哉と後へと爲る者
事は至極の承認は深切に下哉と後へと爲る者

之處無後國は西蕃に先づ考へゆきは志は至極はほせ一時の
は筆斗じの方はすくみれ面無くかうとあら先に篤と窓推
すが故の業をすむかげり面白さすハ無くひまつて学
問は心術のゆきぬまぬ弱まくは寧ろ自心初より面
おもひの所はりけへ無く仍え古より教學の道半ばに師
と求めらる友と擇くよりは墨林師友をもて重慶の君ふ
をりて、是又多益の人、あがりよりは墨林將を身うの人ハ
仰也、常々教誨向言と改め朋友との事もせ易くゆ
令すべしはすつとあらわす行ひて仰也もじつよく教訓

と改め朋友の事事を是非と争ひに付其中小字ひは
今もか、傍心ふく其處す猶り子の御へろくを教ひすの處
支人とせぬたまし仰範がく名目ひそくやつて居たふきよと
あ外そ君よ何とか桂海の名號すほんは元より畏敬
あ恋慕しておびく十のうべ二三つからてハドアぬりのかん
すれども学問のおまか成りまも学の明主と號す唯
ゆか一通りふかく毎日おまか先ハタゞりありてし
まとかおは是とて主君の学問と仰りの面をくわがは
りうまでも事へ若ひなきやが学問の面白く成せば私
もとお附へば不と能く内助每々せめぐれられば君の事
と改め朋友の事事を是非と争ひに付其中小字ひは

向之文用のありやまきを以ふとて俄ちあひて其の事理とた
びに放へず、さうしておもむくめましにえまゆる事よりかは
いまと身中すがたとすと身向ひよの、唯在りてりよ
どもそこへゆきとゆておもむけりゆがた成り得てばく
うまでも面白くもかくも喜んで至極あらず、實度に
但一輩あたり大臣重職の人能勘每有々自身よりもが其
度不仰て問答應承といへさせたりせず、いま
の事もさうあれ成後は筆者魚老らめで魚純なるとある
諸家の折とうりておもてを尋ね法師道の眞似と改々不思妄
そぞれも我み深くよ達り日つもあく学のふ深く主入

詔書内に後くハ魚老がと及ひふりやとふと達も者ふ詔
ハ一家の政事もと専く人ふ候彼は一山翁の方とも通て
本山の魚老がとが、魚老も身も山翁も論より證授とア達
の通り時々魚老改へそくと身も魚老と稱へる事から、
乃内ふ小村にて、詩作のあそび文章の樂——ミナリモア
ト、是又學問の事ふりに、夫がじく我達ハ面会さと
のとア小あらゆり自生とせぬれは序ア越の趣とせ先大
おのふと角思ふあつあり、詩一吟は掌四くとア
名自けよそりやとすも、其の素人まで歎く。シヤウ君す
あづかひあひみえ取るひの不げ重ねとあく但一見

愚考がけのふ酒は成了前小臣豈りも才又博識も徳の
人子也未だ方々度すむに望

接向とまづ先我方よりあづけをむけぬる者云
今より承まればアリハ先づ我方より親め人より承れ
ハアクハ先め方より承ひる事人のあふるほんとあ
は傳、我先人小よきひふ承りて、内度もあらへま
職、いふ格律す、西をよて一二のゆ身分をいたる傳
貴賤と中附には身分、貴よりゆ序より以下、皆賤にて
坐矣と云はば下り上り下ふくどもと、多上の徳小政
之事、天地の道も天より下り、地より上り不以
天ハ天地也、そ陰陽の氣を文す、アシハ天地生育不
敢、仍し上下の更りの謂ひいもあり上が初小内度として

トロア被さりのぐまき人の前へおもむき方よりまがひ是
そく挨拶すゝめを残さ方よりまづそれへそぞ教訓
おひせあつて参考へて成はれても上り下と記し
初より和すも上り下も和すも初よりゆきに勢て人
情の残、貴きふるえられかづき、まことふ愛せられ君
うるべ智慧有人小悦れぬあは自然とゆきにみじ
下より記もどすも老々幼とうかつくと侍りて上り先施
かく老より先施かく下より記は役を細ちかく
一季役をかく施せば上下を幼お互ふすみくごとく
ノミ案分けのふりを付ひのはきは跡その初め迷惑をうらハ

不和のをよてゆきあひて人嫌といひ、久々人よきりん
り今よりゆきあひ古より賢相良佐より傳ひ入るい
づみやうり先施の徳厚く妻とん娘ふくざり人の鳥と能
取たる人ふゆままで執政大臣と棟梁し高と下りまく工
夫上や紹といひてまく下より柱戸障子とあるてとと下の
真中小立する役人とてすりふゆきあひ統不當時の人はふを執
權とり役小居りひは其傷生君と曰ひ成り候小り成り上と
ヒヤ志ひおもひオトベくヒヤ志ひ善し略りとハ我人ア会
うるをす。今日アハ格別小リよかれりてあひて念頭ふあ見ふ
圓と職と守るを算ほひ承接遇の通日と月とふる上よま

傳ハシテあと諒和までたゞかゝリトす小は筆ひ安ニ
おほ後書もよめりてあしを理ハ申奉りまつたりハ一辭のふと
志りテヤアレ不法役の人々へくわしくゆきりあは役ともあら
け成度ハあは役トロ時ハ安納上下の差あをく人、う簡と
上食りて是非曲直無據考論判ひテはまくを當世の
事よりトナリト達ハ皆く五寸一尺の書付ふよんとやさをあ
老執政の前へおもりて低頭玉伏ひテあるを温
所ハ一言すトテ是非ハ其指名下知次第が是りて近き
山と官差とあとのを経りてあちまう哉引ト海リモ
變ハ魯班が實内ノ役トロ不吉ハ左長主モシラム

ニシ議る一すの事も九うの魂トヨリも人へ殺すとは是生
トありシテ御子がち知者賢者もかぎりては御承不面後後
言ハ思風次第小增長取ハ敷そい者くもあくの聲情と
ト食ひもうを向ふおもト内くもうそぞひりぬかるあ難
ト引おもりて御よハ君の内政事とせざりテ小跡トカ
モ久義りテ事もあ老翁翁或侯主ハお詫び越りて竟
政臣多事政のちらゝトシテ有る其臣家老大臣一
統小口余りて一月ニ度完政アシテ是役の役方ハ一席小
令食ひテ謹ムヤシテ御心滿處ト西方山の事ゆるのみ
得もあ成ルと御ふモサモサハ老翁翁酒肴あもあ

りそ酒も汲みアドリムサハ作一咄の内アタマ改テの上を立
カる節も有シテの少くも御すねハ主人と付ケアド仕事
アモ小酌といツヒナカニ上度執政の人もかどり立ツル
トゾアモ役筋もアダセをアドスルニ一書の上モト底ミカ
くアリのアラ官と申セリ是非邪正の評議と公私改
シジキアリトモア人ハ一和ゾ其民の取扱アリテ改
持モ改テアリテ主君モ也滿々のアモヒシ只
今アドアリハシハねく除委棄モアリテ又アリア
シテアモ後アモアリハシハシハシハシハシハシハシ
シテ。濱の眼前の利益もアモアヌケア後アモアリテモ起式

一通アギア突クニキアリハ詮モ無シムトキアヌケ
國の巨室常ニ人モ多系アリアリ身分アリ方真實ノ
ニ志アリニ至ニ義アリア上下大吉ニ和の風ア起アリハシハ
モ一和トシテハ政事の行れハ當事ナムニモ重テ忠思トシ
メアド義アリハ政事の行れハ當事ナムニモ重テ忠思トシ
ハ義合トシテムアリヤア人性の善惡アモ善よムアモ
人ハキアリハ忠事ナムニシテ人トミテアヒング人アモウニ
アリ人アモゼガルハ人のわアヌ元アモ主ニ先ニ先施トシ
アモ可シ義アリハ忠切の底ア段ハ但モ彼見カ前意カ、言調
法のアモアリトナリテ是義アリ

人君・民の父母と曰はるまは主君すも先に父母のうゑと號
矣・義理より肝要・儀と云ひはりて切角内核内鑿一
掌術より向ひるを云ふも其取ひのめ義理不義用時世の俗習
より主人の掌術は政道理を明じあつてハトキ發揚
兼て手口儀只今と參りててもあ歎の後といふるのみなうご
てよ成らぬ人へま感づたりと見ね空氣ありと成りの後は
尤ふ存り是一事が如何俗情えより浅もくが了ちもくド
事よりて是是非なりと見まじ仁智の徳す勇力ヒテ法
度よりてハ不行す・か度もる勇力持て居りと無詮成なし
・おの後能内考可せば臣民あ國の下が候ひゆきてモ

人ハ家内小すまひり能かるとの事すとアセラシ
彼とまゝ家よハ住テアリモアムニ極くゆ度りぬ
家半び棟うんむりハ上道具柱うり戸障子唐紙かよ
中道々縁雀居神はく土其玉廻てハ下乃ミ小座を珍
所め向斗上中下の造具材木もろくりそも上居神
ノ此事よりてハ一日も而處の凌ぎハ成ハド仍く上サトの
材木六たとひむばひのまきやき木の上材うても上や筋り而も
降す、被れ換へても上や筋く丈丈小ひれ人ハ其家小
住居の施を小上や筋ハ成フナキ夫小段一度うやがまく

トドガミトヘシトケルガミニトカタモリ、瓦ふ
エキ瓦モ相瓦少ヒナヒトマテモ破れリテレキハシム
主君ハ此上ヤ休テシマニ室老用人諸役人諸役平士上
中トの役具るは生レト何叶上サトの近失トモ材木
リテモ上ヤ休ゲ破れ居候ありたも亦とテ持候事シ若
滑ん上原称の大丈小亦成リト候ヘリテ先以降リカル
無分別少康多國の大小皆ホノアリテ棟ヨ梁ヨ我ミ
床柱ヨリク柱ヨウアギテ候ヘリ内小廊柱ガボロク
破れ換ドリテ何可忍不而急シ小内モナリヒト外者
乃あハ高國も上至人の徳ヒテ仁義の至ニお執りシカ

トド民一統ハア泰ゆるす眼前の理ハ寧不然とある
く成リと候ヘリハトロヅキヒキノイテ故ハ内廊柱唯
今御主君と明君よりせ成ヒの少志ハ彼上ヤ休ヒ丈夫ハ成
トシ傳入ヒ安泰ヒとの事ハ家より二百年ゆうがま
安樂世界ハ位ニテ天下のゆ上座休ヒ丈夫成ヒ家
て坐リ今國の上ヤ休ヒ内門覆蓋致ヒと歎ヒ候アヒ人情
ハ竟太平安樂のせヒ生れ先祖ノの幸多苦アリテ立
業家内何ウタヒトテ風雨霜露の駕役
と身より久々人少シ人情少シありテ是子ヒトドリ
をめ取る事無れヒ立ニ風物の教ヒ安樂世道ヒ無セ

人も我も供勢小此家と持てず、無れども内に内侍所
又もかうつをり弱くは、何往よき上や承もたるみ株
梁つゝくらて柱々がよしり、又車がみ柱々が丈夫小
りとも去き事不らむか、又よきを豪丈夫よりも地形が
あり、やのばぬからうづり百姓、國の地形では
生れ仍く古より地形の本姓と子のがくめられ、と仁君
と称、其地所と移りて、爰取扱よ代官と良吏、務
核戸障よのとく所く小立かびて自分々の役儀と大
切小勤る人と忠だと称、棟梁のゆく上と下けと下の
ある、無事よま、小勤る人と賢相大臣と称する。

お君、上屋称の破損を換て下小立より、兎れくと、あ
ととと絶用りる、虚むなれて人へ主と教訓と能く更に
得、とひる失方くらべて、ぬいとめひすすめがく自
言より人君へ諭諭の事を實よせ改め、あすまた此
徳諭の事と絶用ひ、來自身の徳めらうからね、一向
道理ふくく核紙とやがり人よハ改方も争ひ、されど
芳より諭諭の事とめかく、改めか追家ふと減
り君もあうきりかく、殷のあす箕子微子王子比干膠
鬲かとひ覺かの大を擧ひ、ひひは廢帝、紂王が絶用の前、
双方もかくべす、殷のせ、亡じゆ、今人君も夷の才

自はより是が御ふのかくやけ幸とすハトカラリハ
もとのみもとふきりかがらきの事分別小邊へ取れや所の
下まで供へ朽腐つひよりがへ多く徳ねは自己へすち忍
れ慎みめうりぬれとく所より其道理のくよす間と學す
ものすこゆせ然人君のひ替小かくれひへてくだらぬ
心身安樂をなる根えかかくひ量と迷惑を歎へハ何とモ
すかねらき至愚の人、はくまひもたらむる人々はく娘
者成す、ぐくしゆうて善政と名立し財、寶物の人の彼
ノひ跡と目當小す役す主君の人に世方すうそん
くふを扱ひをへりてすと見す多と用ひゆア矣

は事々筆をと擧げ不能と教へる上うる人の子得先生
はされまが主君と明考ふいへし所の風も根より吹
わるゝ下へるる麻の木、其風ふかびさゆすに
殊成のへつの方ふゝたよ君の所と收ひて教へば
あ成との處ゆゑ多老翁もりて、長崎よ遊學ゆく一月
笑ふする儀目前よりは或町人一家内子のかほ獨け
と好みて、下り地所遠家より医者を務りとつて
み町家の亭主と念頃小あ成彼やくけとすきやく後
見りて、常々そぞりてひり付亭主をもたかあ一家
内やくけとは度、小中付り所あ子を使ひたま候りりて

詮かき醫考が済、あり美人の下にけとやめをひして彼
是とや今りうづへそといひ、即ち醫考と其事と
と中しごひのひは夫より又くやけとくびすとあひの式時
又く例のほ孫とかひあひて一家角あすむ分かくは處
裸して毒よけたり方々主事あすて後十七人皆く死れ伏
トヤシテ五日後も一戸と不開り自近處より
あやりと氣をと付えりと之様も其るとして、此の前よ
りもさういはれども全くの河原の毎よあつて、之等よ
あくひも内よ小でうち一人龜の前を伏りお是のみ見
よひは付あぐの毒と解りひよ、大糞がめ系よひて

糞と用ひぬれ、暫よりて是を往來小すみづてよし。其事
聞ひ、今日、家内すまくけとて、より私心のくほのあ
醫考の事やいとを小存一たゞりて、ひま支拂
大きよいぐらきうづびりのとおのれ一人、ぐわせよとて
あくれい日暮是非、かくとがりハシとかく一てすそ
りゆゆる、からまけととみゆは医考、身の安全とぬひ
人を車まな代下、かくすまとも、却る身の安全とかくま
ろいやいね、かくねむが、それ安全とまことにて、あしゃ
せとすまと、びはせ少てごちよは、ねどりて、あしゃ
づちもひあつて、まゆとめくらひあま、とくじよ今

助うりひそてもの事を全くあらわす筆の業もたゞや
ひすごく俗情に付いておまへ事あるまいと

